

6.2. 口頭発表

本節には、気象研究所の職員が筆頭者として行った講演、口頭発表などを個人別に掲載している。各発表の情報は、発表期日の順に並べている。また、筆頭者以外の発表については、件数のみを掲載した。

- 青木輝夫
- ・ Effects of snow grain size and snow impurities on albedo measured in Sapporo, 1st Asia CliC Symposium - The state and fate of Asian Cryosphere -
 - ・ Possible effect of snow contamination with soot on albedo reduction, 日本地球惑星科学連合 2006 年大会
 - ・ ADEOS-II/GLI 雪氷プロダクト再計算値検証結果, 日本気象学会 2006 年度春季大会
 - ・ Variations of snow physical parameters and their effects on albedo in Sapporo, International Symposium on Cryospheric Indicators of Global Climate Change, International Glaciological Society
 - ・ 積雪粒径と不純物濃度の関数として変化する積雪アルベド物理モデルの開発, 日本気象学会 2006 年度秋季大会
 - ・ 積雪期の札幌における放射収支と積雪物理量の観測, 日本雪氷学会 2006 年度全国大会
 - ・ Science of cryosphere using GCOM-C/SGLI data, International Workshop for “Global Estimation of Biomass using the next generation sensor”, Institute of Industrial Science, University of Tokyo
 - ・ Estimation of snow/ice parameters and the radiative forcing, AMSR/AMSR-E and GLI workshop, JAXA/EORC
(筆頭以外の発表件数 8 件)
- 青梨和正
- ・ 日本海での冬期降水のマイクロ波特性の物理的検証, 日本気象学会 2006 年度春季大会
 - ・ 衛星搭載マイクロ波放射計データの非静力雲解像モデルへの同化法の開発(その 4) : Ensemble Kalman Filter 解析スキムの試作, 日本気象学会 2006 年度春季大会
 - ・ Development of Passive microwave precipitation retrieval algorithm for AMSR/AMSRE, 3rd IPWG Workshop on Precipitation Measurements, Melbourne, Australia
 - ・ 衛星搭載マイクロ波放射計 AMSRE 降水強度リトリバルアルゴリズムの開発(その 5), 日本気象学会 2006 年度秋季大会
 - ・ 衛星搭載マイクロ波放射計データの非静力雲解像モデルへの同化法の開発(その 5), 日本気象学会 2006 年度秋季大会
 - ・ Development of data assimilation method to incorporate microwave radiometer data into a cloud-resolving model, ICMCS-V, Boulder, America
(筆頭以外の発表件数 4 件)
- 青柳曉典
- ・ Monitoring of aeolian dust using JMA operational lidar under the framework of WMO/GAW aerosol observation network, 23rd International Laser Radar Conference
 - ・ 気象庁非静力学モデル用簡易都市キャノピーモジュールの開発, 日本気象学会 2006 年度秋季大会
 - ・ 気象庁 NHM への簡易都市キャノピーモデルの組み込み, 第 8 回非静力モデルに関するワークショップ
- 青山道夫
- ・ 日本におけるクリプトン 85 測定と測定用標準について, 第 43 回アイソトープ・放射線研究発表会
 - ・ 栄養塩標準物質の開発研究と国際共同実験, 2006 年度日本海洋学会秋季大会
 - ・ Long term behavior of ^{137}Cs in the global marine environment: observations and model

- simulation, International Symposium on Environmental Modeling and Radioecology
 - ・ Long Term Behaviour of ^{137}Cs in the Global Ocean: Source, transport processes and present status, 2006 SHOTS Workshop
 - ・ Historical Artificial Radionuclides (HAM) database a global version HAM2006, and development of integrated multi-tracer database in the marine environment, 2006 SHOTS Workshop
 - ・ 海洋環境における人工放射性核種の長期挙動の研究, 第 48 回環境放射能調査研究成果発表会
 - ・ ^{137}Cs and Pu isotope distribution in the subtropical gyres in the Southern Hemisphere in 2003-2004, AGT Fallmeeting (AGU)
 - ・ 太平洋深層における栄養塩変動について, Blue Earth' 07 第 10 回みらいシンポジウム
 - ・ 太平洋におけるセシウム 137 の長期挙動, Blue Earth' 07 第 10 回みらいシンポジウム (筆頭以外の発表件数 15 件)
- 足立アホロ
- ・ Evaluation of three-beam and four-beam profiler wind measurement techniques using a five-beam wind profiler and collocated meteorological tower, 2nd Wind Profiling Workshop -Vaisala Boulder-
 - ・ Wind Profiler and Doppler Radar Observations of a Gust Front and Cold Outflow Embedded within a Typhoon, 7th International Symposium on Tropospheric Profiling
 - ・ 温暖前線に伴う強風と降雨の観測, 日本気象学会 2006 年度秋季大会 (筆頭以外の発表件数 3 件)
- 足立恭将
- ・ シベリア針葉樹林のツンドラ化に対する気候モデルの応答実験, 日本気象学会 2006 年度春季大会
- 五十嵐康人
- ・ 富士山麓でのサルフェート粒子観測の試み, 日本気象学会 2006 年度春季大会
 - ・ 降雨時の高 γ 線量率事象の季節変化と地域特性について, 第 43 回アイソトープ・放射線研究発表会
 - ・ 富士山で観測した SO_2 , AIE シンポジウム「エアロゾルの大気環境影響」
 - ・ つくばにおける人工放射能降下量の推移 -2000 年代のデータを含めて, 日本放射線影響学会第 49 回大会
 - ・ Long-range transport of SO_2 plume from the continent over Japan: Observation at the summit of Mt. Fuji, Joint CACGP/IGAC/WMO Symposium Atmospheric Chemistry at the interfaces 2006
 - ・ Temporal and spatial variation in radioactivity deposition in Japan-Influence of the Asian dust-Kosa, International Symposium on Environmental Modeling and Radioecology
 - ・ 富士山を観測タワーとしたエアロゾルの鉛直的観測研究, 富士山プロジェクト国際ワークショップ
 - ・ 大気圏の粒子状放射性核種の長期的動態に関する研究, 第 48 回環境放射能調査研究成果発表会 (筆頭以外の発表件数 16 件)
- 石井雅男
- ・ 北太平洋西部亜熱帯域における海洋 CO_2 の変動, 「海学問」白鳳丸・淡青丸研究成果発表会
 - ・ 太平洋赤道域の温度躍層における全炭酸濃度の増加傾向, 2006 年度日本海洋学会秋季大会
 - ・ Decadal trend of dissolved oxygen in the North Pacific along 165°E - a preview, North Pacific Marine Science Organization 15th Annual Meeting

- ・ Oceanic CO₂ increase in the western North Pacific subtropical gyre and its adjacent zones, SHOTS(Southern Hemisphere Ocean Tracer Studies) Workshop 2006
 - ・ 二酸化炭素を吸収する海 ―その実態解明に向けて―, 東北大学 21 世紀 COE 先端地球惑星科学セミナー
(筆頭以外の発表件数 3 件)
- 石崎 廣
- ・ Lateral Mixing of Tracers due to Small-Scale Disturbances Simulated in an Eddy-Resolving OGCM, American Geophysical Union Fall Meeting
 - ・ 海洋モデルにおける入射角を考慮した短波放射の取り扱いについて, 2007 年度日本海洋学会春季大会
(筆頭以外の発表件数 7 件)
- 石原幸司
- ・ 異常気象と地球温暖化について, 地球温暖化講座
 - ・ 地球温暖化に伴う日本の冬季降雪変化について, 日本気象学会 2006 年度秋季大会
 - ・ ノンパラメトリックな手法を用いた確率降水量の算出, 日本気象学会 2006 年度秋季大会
 - ・ ハドレー循環でみた季節進行の長期変化傾向 ～JRA-25 と温暖化予測実験結果を用いて～, 第 4 回「異常気象と長期変動」研究集会, 平成 18 年度防災研究所一般共同研究集会 (18-K01)
 - ・ 世界の平均気温の算出について, ISM シンポジウム「地球環境研究における統計科学の貢献」-地球環境変動の不確実性への挑戦-
- 石元裕史
- ・ 粒子表面のラフネスによる光散乱特性の変化, 日本気象学会 2006 年度春季大会
 - ・ Effect of minor deformation for the light scattering of ice and aerosol particles, SPIE Asia-Pacific Remote Sensing 2006
 - ・ 地上設置型多周波マイクロ波放射計による気温・水蒸気プロファイルのリトリバル, 日本リモートセンシング学会第 41 回 (平成 18 年度秋季)
- 伊藤秀美
- (筆頭以外の発表件数 1 件)
- 稲葉守生
- ・ 全球大気モデルを用いた 2005 年 12 月の予報における初期値及び下部境界条件依存性, 気象学会 2006 年度秋季大会
 - ・ 全球大気モデルを用いた 2005 年 12 月の予報における初期値及び下部境界条件依存性, 月例会「長期予報と大気大循環」日本気象学会 LF グループ
 - ・ 全球大気モデルを用いた 2005 年 12 月の予報における初期値及び下部境界条件依存性, 第 4 回「異常気象と長期変動」研究会、平成 18 年度防災研究所特定共同研究集会 (18K-01)
 - ・ 全球大気モデルを用いた 2005 年 12 月の予報における初期値及び下部境界条件依存性, ワークショップ「降水に関するレーダーと数値モデルによる研究 (第 5 回)」
- 井上豊志郎
- ・ 亜熱帯海洋性層積雲スキームの精緻化の試み, 日本気象学会 2006 年度春季大会
 - ・ Comparison of Cloud Amounts from Split Window of AVHRR, ISCCP and TOVS Path-B, GEWEX Cloud Climatology Meeting
 - ・ Temporal variation of low-level cloud and deep convection observed by split window –as a validation data for model performance–, The international workshop on high-resolution & cloud modeling: Fusion of satellite observations and high-resolution modeling
 - ・ PtReyes(カリフォルニア州)における下層雲の雲パラメータと降水, 日本気象学会 2006 年度秋季大会
 - ・ Retrieval of optical properties of water cloud from VIS/IR and comparison with TMI/TRMM, SPIE Asia-Pacific Remote Sensing 2006

- ・可視・赤外画像による雲の見方、第6回公開講演会「人工衛星から雲と雨を観る」、名古屋大学地球水循環研究センター
- ・Diurnal variation of low-level water cloud and deep convection derived from Meteosat-8, AMS 19th Conference on Climate Variability and Change
(筆頭以外の発表件数 3 件)

猪上華子 (筆頭以外の発表件数 1 件)

- 上野 充
- ・台風コア域内降水非対称の強制力指標としての「鉛直シア」の妥当性、日本気象学会 2006 年度春季大会
 - ・Wavenumber-one rainfall asymmetry observed in typhoons and its relevance to ambient vertical wind shear, The Asia Oceania Geosciences Society 3rd Annual Meeting (AOGS2006)
 - ・鉛直シアにより生成される台風コア域内降水非対称の大きさについて、日本気象学会 2006 年度秋季大会

- 碓氷典久
- ・Formation process of the Kuroshio Meander southeast of Kyushu in 2003 fall, 2006 Western Pacific Geophysics Meeting
 - ・2004 年黒潮大蛇行の形成過程－九州小蛇行の形成メカニズム－, 2006 年度日本海洋学会 秋季大会
 - ・気象庁次期北西太平洋海況予測システム (MOVE/MRI.COM-WNP) の再現性－システムと同化実験の概要－, 2007 年度日本海洋学会春季大会
(筆頭以外の発表件数 8 件)

- 内山明博
- ・エアロゾルの光吸収特性について、日本気象学会 2006 年度秋季大会
(筆頭以外の発表件数 2 件)

内山貴雄 (筆頭以外の発表件数 1 件)

- 永戸久喜
- ・大雪となった 2005 年 12 月の新潟県における降雪特性と総観場の特徴、日本気象学会 2006 年度春季大会
 - ・Resolution dependence of hydrometer structures generated by cloud resolving model, The International Workshop on high resolution & cloud modeling: fusion of satellite observations and high-resolution modeling
 - ・雲解像モデルの降水物質予測特性の水平解像度依存性について、日本気象学会 2006 年度秋季大会
 - ・Comparison of the JMANHM Simulations of Cloud Microphysical Parameters with Observations for Validation and Improvement of Snowfall Forecast, 5th International Conference on Mesoscale Meteorology and Typhoon
 - ・雲解像モデルの降水物質予測特性の水平解像度依存性について、第 8 回非静力学モデルに関するワークショップ
 - ・Cloud resolving simulations of mesoscale precipitation systems and investigations of the characteristics and sensitivities of simulated hydrometeors structures, The 3rd International Workshop on Precipitation Retrieval Algorithms and Global Precipitation Map Using Satellite Microwave Radiometer, Radar and IR Data
(筆頭以外の発表件数 3 件)

- 大泉三津夫
- ・JMANHM 新陸面モデルによる関東平野の積雪再現実験、日本気象学会 2006 年度春季大会
 - ・JMANHM による関東平野の積雪再現実験での過少積雪について、日本気象学会 2006 年度

秋季大会

- 大関 誠 (筆頭以外の発表件数 2 件)
- 岡田菊夫 ・ 南北両半球の自由対流圏におけるエアロゾル粒子濃度の鉛直分布について, 日本気象学会 2006 年度春季大会
(筆頭以外の発表件数 1 件)
- 尾瀬智昭 ・ CEOP 地上観測地点データを利用した JRA-25 再解析データの検証, 日本気象学会 2006 年度秋季大会
- 小畑 淳 ・ 陸域二酸化炭素施肥効果の不確定性が温暖化予測に及ぼす影響, 日本気象学会 2006 年度春季大会
・ 北大西洋への淡水流入に対する気候炭素循環モデルの応答, 日本気象学会 2006 年度秋季大会
- 折笠成宏 ・ Characteristics of cirrus crystal shapes from hydrometeor videosonde data, 12th AMS conference on Cloud Physics
・ HYVIS 観測データから得られた巻雲内氷晶タイプの特徴, 日本気象学会 2006 年度秋季大会
(筆頭以外の発表件数 6 件)
- 勝間田明男 ・ 三次元不均質構造における震源計算の高速化 (2), 日本地球惑星科学連合 2006 年大会
・ 深部低周波微動・地震の発生機構, 日本地球惑星科学連合 2006 年大会
・ 震源計算のための三次元速度構造, 日本地震学会 2006 年度秋季大会
・ Laser interferometer for detection of slow-slip events, 6th Joint Meeting of the UJNR Panel on Earthquake Research
(筆頭以外の発表件数 4 件)
- 加藤輝之 ・ 2004 年 8 月 7 日に東日本に熱雷をもたらした上層高渦位(寒冷)渦について-夏期に熱雷をもたらす要因の統計的研究を踏まえて-, 日本気象学会 2006 年度春季大会
・ 冬季日本海における積乱雲の潜在的発達高度に関する統計的研究, 日本気象学会 2006 年度春季大会
・ 雲解像モデルが予想した雲頂高度から見た 2005 年 12 月の豪雪-積乱雲の潜在的発達高度との整合性について-, 日本気象学会 2006 年度秋季大会
・ 梅雨期における積乱雲の潜在的発達高度に関する統計的研究その 2: 上層と中層のピークを決定する要因, 日本気象学会 2006 年度秋季大会
・ Cloud top heights of cumulonimbi thermodynamically estimated from objective analysis data during the Baiu season, International Conference on Mesoscale Meteorology and Typhoon (ICMCS-V)
・ 雲解像モデルが予想した雲頂高度と積乱雲の潜在的発達高度との整合性について -2005 年 12 月の豪雪を例として-, 第 8 回非静力学モデルに関するワークショップ
・ 領域解析データからみた 2005 年 12 月の豪雪の要因と雲解像モデルを用いた降雪予測, 第 5 回降雪に関するレーダーと数値モデルによる研究についてのワークショップ
(筆頭以外の発表件数 3 件)
- 蒲地政文 ・ Multivariate Ocean Variational Estimation (MOVE/MRI.COM) System in JMA/MRI: Synthesis and Reanalysis with Emphasis on Temperature-Salinity Water Mass Variation, CLIVAR/GODAE Meeting on Ocean Synthesis Evaluation

- ・ JMA_MGDSST: Operational Product of Japan GHRSSST - Merged Satellite and In-situ Data Global Daily SST -, 3rd GODAE Symposium
 - ・ Japan National Report, 11th International GODAE Science Steering Team Meeting
 - ・ Japan National Priorities, 11th International GODAE Science Steering Team Meeting
 - ・ On Status of Pacific Intercomparison Pilot Project, 11th International GODAE Science Steering Team Meeting
 - ・ 海洋モデル・データ同化システムによる海洋環境の再現・理解・予測, 第4回環境研究機関連絡会成果発表会「広がる環境研究フロンティア」
 - ・ Ocean State Estimation for Climate Analysis and Prediction in the Pacific, Symposium on the Predictability of the Climate Variations in the Indo-Pacific Sectors
(筆頭以外の発表件数 17 件)
- 上口賢治
- ・ 20km 格子全球大気モデルによる降水エクストリーム：海面水温依存, 日本気象学会 2006 年度春季大会
 - ・ L-moment 法を用いた全球 20km モデルの年最大日降水量の検証について, 日本気象学会 2006 年度春季大会
 - ・ Evaluation of precipitation extremes simulated by a global 20-km-grid atmospheric model using L-moments method, WGNE/PCMDI Systematic Errors Workshop
 - ・ TRMM データを用いた GCM 降水量の検証, TRMM PI 研究成果報告会
 - ・ 極端現象の将来変化について, 人・自然・地球共生プロジェクト平成 18 年度第 3 回研究運営委員会
- 川畑拓矢
- ・ Assimilation Experiment of the Heavy Convective Rainfall Event with a Cloud Resolving Nonhydrostatic 4 Dimensional Variational Data Assimilation System, European Geosciences Union General Assembly
 - ・ 4 次元変分法を用いたレーダー反射強度データ同化スキームの開発, 日本気象学会 2006 年度春季大会
 - ・ NHM-4DVAR を用いたレーダー反射強度データ同化実験, 日本気象学会 2006 年度秋季大会
 - ・ NHM-4DVAR を用いたレーダー反射強度データ同化実験, 非静力学モデルに関するワークショップ
 - ・ NHM-4DVAR を用いたレーダー反射強度データ同化手法の開発, データ同化および雲解像モデルに関する研究集会
(筆頭以外の発表件数 3 件)
- 北川貞之
- ・ JERS-1 コヒーレンス画像を用いた溶岩流の検出, 平成 18 年度東京大学地震研究所共同利用研究集会「新世代の干渉 SAR」
 - ・ 干渉 SAR コヒーレンス画像を用いた溶岩流の検出 ニアムラギラ火山の例, 日本火山学会 2006 年秋季大会
 - ・ ALOS PALSAR の干渉 SAR で見た雲仙岳溶岩ドームの変形, 平成 18 年度 京都大学防災研究所共同研究(研究集会 18K-07)「宇宙測地・リモートセンシング技術による地殻変動研究の発展」
 - ・ JERS-1 干渉 SAR で見た 1996 年 12 月ニアムラギラの噴火, 平成 18 年度 京都大学防災研究所共同研究(研究集会 18K-07)「宇宙測地・リモートセンシング技術による地殻変動研究の発展」
(筆頭以外の発表件数 1 件)
- 北畠尚子
- ・ 2005 年梅雨期の日本付近の上層の流れと対流活動の関係, 日本気象学会 2006 年度春季大会

- ・ 台風 0514 の構造に対する環境場の影響, 日本気象学会 2006 年度春季大会
- ・ 台風の温帯低気圧化に関する理解の現状: 主に擾乱構造の多様性に関連して, 東京大学海洋研究所附属国際沿岸海洋研究センター研究集会「台風の力学: 何が理解されていないか?」
- ・ Tropical Cyclones landfalling on Kyushu and Their Interaction with the Midlatitude Environment: The cases of Typhoon Songa (0418) and Typhoon Nabi (0514), 2nd Korea-Japan-China Joint Conference on Meteorology
- ・ 伊勢湾台風の構造の再検討 一昔のデータに最近の知見を適用する一, 日本気象学会 2006 年度秋季大会

鬼頭昭雄

- ・ 大規模山岳が気候形成に及ぼす影響に関する気候モデルシミュレーション, 日本地球惑星科学連合 2006 年大会
- ・ 気象研究所気候モデルによる完新世中期のエルニーニョシミュレーション, 日本気象学会 2006 年度春季大会
- ・ 温暖化予測, 気候変動問題に対する中長期的取り組みのあり方に対する検討委員会
- ・ 過去・現在・将来の気候シミュレーション, 日本気象学会夏季特別セミナー (第 18 回夏の学校)
- ・ Monsoon simulations for the past, present and future by a coupled ocean-atmosphere GCM, 4th International Symposium of IGCP-476
- ・ Climate simulation with a global 20-km mesh MRI/JMA AGCM, Seminar at Dept. Atmospheric Sciences, Pusan National University
- ・ Impact of global warming on precipitation and streamflow simulated by a 20km-mesh climate model, 3rd APHW Conference
- ・ Paleo-monsoon and ENSO simulation by a coupled ocean-atmosphere GCM, Northeastern Asian Symposium 2006: Climate Change and Carbon Cycle
- ・ 高解像度大気大循環モデルによる温暖化と水循環予測, HyARC-SELIS 合同シンポジウム「地球温暖化は水循環をどう変えるか?」
- ・ Asia-Pacific monsoon climate at the Mid-Holocene and the Last Glacial Maximum simulated with the MRI coupled model, International Symposium on Dynamics of Ice Age Climate
- ・ Climate and its Variability, JICA Training Course "Meteorology"
- ・ Asia-Pacific monsoon climate in the Past, present and future simulated with the MRI coupled model, 2006 AGU Fall Meeting
- ・ 大規模山岳のインド洋・太平洋へのインパクト, 気象庁・地球フロンティア研究センター研究懇談会第 2 回会合
- ・ Impact of precipitation characteristics on model's horizontal resolution and orography, 19th Symposium on Climate Variability and Change
- ・ Tropical rainfall diurnal cycle in a 20km-mesh atmospheric GCM, WGNE/PCMDI Systematic Errors Workshop
- ・ Asia-Pacific climate in the future, Korean Meteorological Society Symposium 2007: Global Warming and Its Socio-Economic Impacts
(筆頭以外の発表件数 11 件)

楠 研一

- ・ Assessment of the Doppler Radar for Airport Weather (DRAW) system in Japan as a research tool for studying typhoon, 27th Conference on Hurricanes and Tropical Meteorology
- ・ Gravity wave-like structures observed in onshore Typhoon boundary layer of Typhoon Kirogi (2000), 27th Conference on Hurricanes and Tropical Meteorology
- ・ Doppler radar investigations of the inner core of Typhoon Songa (2004) Polygonal/

- elliptical eyewalls, eye contraction, and small-scale spiral bands, 27th Conference on Hurricanes and Tropical Meteorology
- Assessment of the operational Doppler radar system in Japan as a research tool for monitoring clear-air circulations, 第 11 回日米気象技術交流会
 - 台風 0003 号のアウトバンド下層に見られた重力波構造, 日本気象学会 2006 年度春季大会
 - 空港気象ドップラーレーダーによる台風の観測的研究について—データリストの作成と観測ポテンシャルの評価—, 日本気象学会 2006 年度春季大会
 - Intense Small scale boundary layer rolls observed in Typhoon Songda (2004): As a potential hazard to buildings, 4th US-Japan Workshop on Wind Engineering
 - 詳細気象観測のための可搬型レーダーの設計と試験, 平成 18 年度電気学会 基礎・材料・共通部門大会
 - 浮遊性昆虫群からの反射電波を利用した大気モニター技術の開発, 平成 18 年度電気学会 基礎・材料・共通部門大会
 - The design and testing of portable X-band Doppler radar for fine-scale meteorological observation, 4th European Conference on Radar in Meteorology and Hydrology
 - 詳細気象観測のための可搬型ドップラー気象レーダーの開発, 日本気象学会 2006 年度秋季大会
 - 台風アウトバンド下層の重力波出現時の総観場の特徴, 日本気象学会 2006 年度秋季大会
 - Generation of internal gravity waves in onshore typhoon boundary layer, 5th International Conference on Mesoscale Meteorology and Typhoon
 - Wavenumber Structure and Evolution of Typhoon Songda (2004) inner core by Doppler radar, 5th International Conference on Mesoscale Meteorology and Typhoon
 - Assessment of the operational C-band Doppler radar system in Japan as a research tool for monitoring clear-air circulations, 5th International Conference on Mesoscale Meteorology and Typhoon
(筆頭以外の発表件数 3 件)
- 楠 昌司
- 20km 格子全球大気モデルによる地球温暖化時の梅雨:海面水温依存性, 日本気象学会 2006 年度春季大会
 - 地球が温暖化すると世界と日本の気候はどう変わるのか?, 上越市まちづくり市民大学
 - Change of East Asia Monsoon in global warming projection by an atmospheric general circulation model with a 20-km grid size, 2nd Korea-Japan-China Joint Conference on Meteorology
 - 20km 格子全球大気モデルによる冬季東アジアモンスーンの再現性, 日本気象学会 2006 年度秋季大会
 - 20km 格子全球大気モデルによる冬季東アジアモンスーンの再現性, 2005 年度月例会「長期予報と大気大循環」2005/2006 年の冬を振り返って
 - 地球温暖化と災害, かわさき市民アカデミー2006 年後期科学コース講座「暮らしの中の科学 ～災害の科学～」
 - 20km 格子全球大気モデルによる冬季東アジアモンスーンの再現性, 京都大学防災研究所特定共同研究集会 18K-01 「異常気象の予測可能性と機構の変化・変動」
 - 異常気象の動向と地球温暖化時の変化予測, “彩の国”;市民科学オープンフォーラム—異常気象と都市洪水災害から地域を守る—
 - Low-level cloud amount simulated by atmospheric general circulation model with a 20-km grid size, 87th Annual Meeting of American Meteorological Society
 - Tropical cyclones in the Western North Pacific, 87th Annual Meeting of American Meteorological Society
 - Tropical Cyclones simulated by a 20km-mesh global atmospheric model, 3rd WGNE

Workshop on Systematic Errors in Climate and NWP Models

- ・ 冬期東アジアの予測可能性, ワークショップ「降雪に関するレーダーと数値モデルによる研究(第五回)」

(筆頭以外の発表件数 2 件)

朽木勝幸

(筆頭以外の発表件数 2 件)

工藤 玲

- ・ 直達光・全天散乱光からのエアロゾル光学特性の推定, 日本気象学会 2006 年度春季大会

國井 勝

- ・ 気象庁非静力学モデルに対する特異ベクトルの計算(第 2 報), 日本気象学会 2006 年度春季大会

- ・ 熱帯域における台風初期値作成のための領域解析, 日本気象学会 2006 年度春季大会

- ・ 気象庁非静力学モデルに対する特異ベクトルの計算(第 3 報), 日本気象学会 2006 年度秋季大会

(筆頭以外の発表件数 9 件)

栗田 進

- ・ 局在する都市の大気境界層に関する風洞実験と LES モデルの比較実験, 日本気象学会 2006 年度春季大会

- ・ Comparison of LES with wind tunnel experiment around and within localized urban canopy under atmospheric turbulent boundary layer, 4th International Symposium on Computational Wind Engineering

- ・ 局在するビル群直上での乱流の応答特性, 日本気象学会 2006 年度秋季大会

栗原和夫

- ・ 雲解像地域気候モデルによる日本の詳細な地球温暖化予測, 第 8 回非静力学ワークショップ

(筆頭以外の発表件数 4 件)

黒木英州

(筆頭以外の発表件数 1 件)

黒田友二

- ・ On the influence of ultraviolet radiation and ozone on the stratosphere-troposphere coupling, EGU2006 general assembly, Vienna, Austria

- ・ 気候モデルで現れた成層圏突然昇温の性質, 日本気象学会 2006 年度春季大会

- ・ Role of ozone on the solar cycle modulation of the north Atlantic Oscillation, SOLARIS meeting 2006 NCAR

- ・ 成層圏突然昇温の熱帯上昇流への影響, 2006 年日本気象学会秋季大会

- ・ Solar cycle effect on climate -Review and recent works related on the modulation of the Annular Mode-, Department of Atmospheric Sciences, University of Washington

- ・ Effect of solar cycle on the troposphere-stratosphere coupling in the southern hemisphere winter, AGU2006 Fall meeting

高野洋雄

- ・ 波浪による海面粗度変化の台風発達への影響, 日本気象学会 2006 年度春季大会

- ・ 海面状態(波浪)の台風強度に対する影響の可能性, 東京大学海洋研究所附属国際沿岸海洋研究センター研究集会「台風の力学: 何が理解されていないか?」

- ・ The impact of roughness changes by sea state under typhoon field, 9th International Workshop on Wave Hindcasting and Forecasting

- ・ 波浪による海面粗度変化の台風発達への影響(2), 日本気象学会 2006 年度秋季大会

小林昭夫

- ・ 愛知県短期的スロースリップの歪計による過去調査, 日本地球惑星科学連合 2006 年大会

- ・ 2000 年以降の東海・中部地域における地殻変動, 日本地球惑星科学連合 2006 年大会

(筆頭以外の発表件数 3 件)

- 小林隆久
- ・ A combined use of the TRMM PR and VIRS for measurements of cloud and precipitation, SPIE Asia-Pacific Remote Sensing 2006
 - ・ Inversion 法を用いたライダーによるエアロゾル特性推定手法, 日本気象学会 2006 年度秋季大会
 - ・ Precipitation and Cloud Properties derived from Synergetic use of the TRMM Sensors, 4th European Conference on Radar, 2006
(筆頭以外の発表件数 4 件)
- 財前祐二
- ・ ビン法による硫酸エアロゾル粒子を凝結核とした雲生成シミュレーション, 日本気象学会 2006 年度春季大会
 - ・ ビン法による硫酸エアロゾル粒子を凝結核とした雲生成シミュレーションその 2, 日本気象学会 2006 年度秋季大会
- 斎藤篤思
- ・ ダム集水域における固形降水の精確な計量, 日本気象学会 2006 年度秋季大会
(筆頭以外の発表件数 1 件)
- 斉藤和雄
- ・ The JMA nonhydrostatic model and MEP tests for the WWRP Beijing 2008 project, Colloquium of Meteorological Service of Canada
 - ・ 気象庁メソモデル技術開発計画と研究コミュニティへの期待, 第 2 回気象庁数値モデル研究会
 - ・ メソモデルによるダウンスケールアンサンブル予報実験(その 3 境界条件の影響の内部への伝播), 日本気象学会 2006 年度春季大会
 - ・ 降水現象の予報高度化の技術, 2006 年度日本気象学会シンポジウム講演
 - ・ Preliminary test for the Tier 1 meso-EPS at MRI, The 2nd WWRP B08FDP/RDP Workshop
 - ・ Mesoscale ensemble prediction approaches for high impact weather phenomena, Second Korea-Japan-China Joint Conference on Meteorology
 - ・ 気象庁非静力学モデルによるメソアンサンブル予報実験(その 4 BGM 法のテスト序報), 日本気象学会 2006 年度秋季大会
 - ・ WWRP 北京 2008 予報実証/研究開発プロジェクト予備実験, 第 8 回非静力学モデルに関するワークショップ
 - ・ 気象予報におけるモデリングの現状と課題, 第 1 回横幹連合総合シンポジウム「統合知の創成と展開を目指して」
 - ・ 豪雨予測のための数値モデル開発と初期値改善の研究について, 気象庁・地球環境フロンティア研究センター研究懇談会第 2 回会合
(筆頭以外の発表件数 2 件)
- 斉藤 秀
- ・ 東経 165 度亜寒帯ー亜熱帯前線域での二酸化炭素蓄積, 日本地球惑星科学連合 2006 年大会
 - ・ 北太平洋中央モード水での二酸化炭素蓄積, 2006 年度日本海洋学会秋季大会
(筆頭以外の発表件数 2 件)
- 坂井孝行
- ・ 深さに比して相対的に大きな半径を有する球圧力源による地表面変位ー有限要素法による数値計算ー, 日本火山学会 2006 年秋季大会
(筆頭以外の発表件数 8 件)
- 酒井 哲
- ・ Optical and Microphysical Properties of Upper Clouds Measured with the Raman Lidar and Hydrometeor Videosonde, 23rd International Laser Radar Conference
 - ・ Comparisons of the Raman lidar measurements of the tropospheric water vapor profiles

with radiosondes, meteorological observation tower, and GPS at Tsukuba, Japan,
SPIE Europe Remote Sensing 2006

- ・光散乱式パーティクルカウンターと電子顕微鏡で測定した鉱物粒子サイズの比較, 日本気象学会 2006 年度秋季大会
(筆頭以外の発表件数 3 件)

佐々木秀孝 (筆頭以外の発表件数 4 件)

坂見智法 ・重力波抵抗パラメタリゼーションと確率過程, 日本気象学会 2006 年度春季大会

澤 庸介 ・ABC-EAREX2005 期間中に観測された CO 濃度の上昇, 日本気象学会 2006 年度春季大会
・ABC-EAREX2005 期間中の CO 濃度の上昇, 第 12 回大気化学討論会
(筆頭以外の発表件数 6 件)

篠田佳宏 ・2006 年春季につくばで観測した黄砂および風塵現象の解析, 日本気象学会 2006 年度秋季大会
(筆頭以外の発表件数 5 件)

柴田清孝 ・赤道成層圏 QBO による二次子午面循環の季節変化について, 日本気象学会 2006 年度春季大会
・QBO, volcanic, solar, and long-term signals in the past 25-year simulation of the middle atmosphere by the chemistry-climate model of Meteorological Research Institute, 4th IAGA/ICMA/CAWSES Workshop on Long-Term Changes and Trends in the Atmosphere
・Solar signals in the past 25-year simulation of MRI-CCM under CCMVal REF1 scenario, 1st SOLARIS workshop
・重力波パラメタリゼーションと QBO, 日本気象学会 2006 年度秋季大会
・Impacts of transport scheme on the global distribution of chemical species as revealed in the CCMVal REF1 simulation with MRI chemistry-climate model, AGU Fall Meet
・気象研究所・化学-気候モデルによる成層圏オゾンの過去再現と将来予測実験, 第 17 回大気化学シンポジウム研究集会
(筆頭以外の発表件数 6 件)

小司禎教 ・地上 GPS 準リアルタイム解析の改良とデータ同化実験, 日本気象学会 2006 年度春季大会
・GPS 掩蔽法: 屈折率プロファイルの MSM との比較検証, 日本気象学会 2006 年度春季大会
・Data Assimilation of GPS data to Meso-scale Numerical Weather Prediction Model and its Impact on Rainfall Forecast, Symposium on Scientific Applications of GPS in Active Geosphere Investigation
・Comparison of Formosat-3/COSMIC Refractivity with Meso-scale Numerical Weather Prediction Model of Japan Meteorological Agency, First Formosat-3/COSMIC Data Users Workshop
・Non-local 観測演算子による GPS 掩蔽データ同化システムの開発, 日本気象学会 2006 年度秋季大会
・Development of Data Assimilation System of GPS Radio-Occultation Data at JMA and MRI, FORMOSAT-3/COSMIC Workshop 2006 - Early Results and IOP Campaigns
(筆頭以外の発表件数 4 件)

新藤永樹 ・Noether の定理と波の振幅 2 次 Flux 保存則について, 日本気象学会 2006 年度秋季大会

(筆頭以外の発表件数 1 件)

- 杉 正人 ・ 地球温暖化で台風はどうか, 日本気象学会 2006 年度秋季大会シンポジウム
- 鈴木 修 ・ メソサイクロン及び局所収束・発散域の検出アルゴリズムの開発ーシビア現象の危険度診断のためにー, 日本気象学会 2006 年度秋季大会
 ・ 台風 13 号の気象状況, 平成 18 年 9 月台風 13 号強風被害と 11 月佐呂間町竜巻被害, 日本風工学会報告会
 ・ 佐呂間町竜巻の気象状況, 平成 18 年 9 月台風 13 号強風被害と 11 月佐呂間町竜巻被害, 日本風工学会報告会
 (筆頭以外の発表件数 7 件)
- 清野直子 ・ Numerical modeling of dust storm in the Taklimakan Desert - Possibility of effective long-range transport-, The 4th International Symposium on Computational Wind Engineering
 (筆頭以外の発表件数 2 件)
- 関山 剛 ・ 太陽活動の 27 日周期変動が中層大気に及ぼす影響: QBO 及び太陽 11 年周期変動の影響を含んだシミュレーション.第 17 回大気化学シンポジウム研究集会
- 瀬古 弘 ・ 豪雨や短時間強雨をもたらした降水系の同化実験(その 3), 日本気象学会 2006 年度春季大会
 ・ CHAMP やウィンドプロファイラーの屈折率データから推定した水蒸気プロファイル, 日本気象学会 2006 年度春季大会
 ・ エアロゾン観測データの同化実験, 日本気象学会 2006 年度秋季大会
 ・ 2003 年 4 月 8 日に大阪湾付近で組織化された線状降水帯ー移動や衰弱と環境との関係ー, 日本気象学会 2006 年度秋季大会
 ・ Evolution and Airflow Structure of Nerima Heavy Rainfall, ICMCS-V, Boulder
 ・ Data Assimilation Experiments Using Refractivity Data of CHAMP and WINDAS, ICMCS-V, Boulder
 ・ Line-shaped Convective Band Developed Over the Osaka Plain, ICMCS-V, Boulder America
 (筆頭以外の発表件数 8 件)
- 高木朗充 ・ 安達太良山沼ノ平火口における GPS・重力観測, 日本地球惑星科学連合 2006 年大会
 ・ 圧力源の形状は地表面変位からどの程度識別できるか, 日本火山学会 2006 年秋季大会
 (筆頭以外の発表件数 7 件)
- 高橋清利 ・ 再解析データ(JRA-25,ERA40,NCEP1/2)における半旬及び日降水特性, 日本気象学会 2006 年度春季大会
 ・ JRA-25 同化システムによる SSM/I 可降水量同化の効果, 日本気象学会 2006 年度秋季大会
 ・ Status of JRA-25 and JCDAS, 6th CEOP Implementation Planning Meeting
 (筆頭以外の発表件数 3 件)
- 高橋 宙 ・ 鉱物ダスト発生・浮遊量の長期トレンド, 日本気象学会 2006 年度春季大会
 (筆頭以外の発表件数 5 件)
- 高薮 出 ・ 領域モデルによる日本周辺での降水現象の将来の変化予測, シンポジウム「異常気象に挑

むー極端な降水現象の理解と予測を目指してー」, 日本気象学会 2006 年度春季大会シンポジウム

- ・MRI-CRCM20km-V1 版の降水ヒストグラム, 日本気象学会 2006 年度秋季大会
(筆頭以外の発表件数 3 件)

高山寛美 (筆頭以外の発表件数 1 件)

高山博之 ・地震時の取り扱いの違いによるシミュレーション結果の比較, 日本地球惑星科学連合 2006 年大会
(筆頭以外の発表件数 5 件)

高山陽三 ・マイクロレインレーダーによる降雨強度観測鉛直風の補正, 日本気象学会 2006 年度秋季大会

武田重夫 ・Hill の球形渦類似の流れパターンによるシンプルな対流モデルの検討(その 4: 安定度、安定成層中における議論), 日本気象学会 2006 年度秋季大会

田尻拓也 ・Laboratory experiments of ice formation in cloud simulation chamber, 12th AMS conference on Cloud Physics
・山岳性降雪雲の内部構造観測 FMCW 型 K-band ドップラーレーダの有用性について, 日本気象学会 2006 年度秋季大会
(筆頭以外の発表件数 2 件)

田中悦子 ・札幌における積雪面上の熱収支観測ー融雪との関係に着目してー, 第 29 回極域気水圏シンポジウム, 国立極地研究所
(筆頭以外の発表件数 1 件)

田中泰宙 ・鉱物ダストが放射収支に及ぼす直接効果の光学特性による違い, 日本気象学会 2006 年度春季大会
・エアロゾル沈着による雪氷面アルベド変化の感度実験, 日本気象学会 2006 年度秋季大会
(筆頭以外の発表件数 3 件)

田中 実 ・20 世紀における日本付近の冬の気温とシベリア高気圧・アリューシャン低気圧(PDO)・北極振動の関係, 日本気象学会 2006 年度春季大会
・アジア・西太平洋地域における長期気候データベースの作成及び応用, 日本気象学会 2006 年度秋季大会

千葉 長 ・浅間山噴火に伴う空震現象のレイトレーシング, 日本地球惑星科学連合 2006 年大会
・降水時の高ガンマ線量率の季節変化と地域特性について, 日本地球惑星科学連合 2006 年大会
・降水時の高ガンマ線量率事象の季節変化と地域特性, 日本気象学会 2006 年度春季大会
・JRA-25 同化システムによる SSM/I 可降水量同化の効果ーその 2(緯度帯で見た違い), 日本気象学会 2006 年度秋季大会
・高ガンマ線量率事象発生にかかわる気象場ー2002 年 12 月 16ー17 日、輪島で観測された事例ー, 日本気象学会 2006 年度秋季大会
(筆頭以外の発表件数 6 件)

忠鉢 繁 ・南極極夜域のオゾン濃度の高度分布(オゾンホール開始時期), 日本気象学会 2006 年度春季大会

- ・南極オゾンホール開始時期, 第 29 回極域気水圏・生物圏合同シンポジウムプログラム
 - ・南極オゾンホール開始時期(ドブソン分光光度計によるオゾン全量データの解析), 第 17 回大気化学シンポジウム
- 辻野博之
- ・"Modeling study on the upper layer circulation of the North Pacific using high-resolution GCMs", Workshop on Southern Hemisphere Ocean Tracer Studies (SHOTS)
 - ・対馬・津軽・宗谷暖流流量の形成および変動要因について, 2007 年度日本海洋学会春季大会
(筆頭以外の発表件数 14 件)
- 出牛 真
- ・化学気候モデルバリデーション(CCMVal) シナリオに基づいたオゾン層の再現および将来予測実験のトレンドを含む長期変動の解析, 日本気象学会 2006 年度春季大会
 - ・成層圏化学気候モデルによる塩素リザーバーの長期的な濃度変動の再現精度の向上について, 日本気象学会 2006 年度秋季大会
 - ・Impacts of assimilation towards observed wind on the long-term trends of inorganic chlorine in the CCMVal REF1 simulation with MRI chemistry-climate model, AGU Fall Meet
(筆頭以外の発表件数 5 件)
- 時枝隆之
- ・西部太平洋域垂表層の溶存酸素存在量の長期変動, 2006 年度日本海洋学会秋季大会
(筆頭以外の発表件数 4 件)
- 直江寛明
- ・対流圏硫酸塩エアロゾルモデルの開発, 日本気象学会 2006 年度春季大会
 - ・海洋大気中における硫黄サイクル, 日本気象学会 2006 年度秋季大会
- 永井智広
- ・Development of the CO₂ DIAL System Using 1.6 μ m Absorption Band, 23rd International Laser Radar Conference
 - ・1.6 μ m 帯 CO₂ ライダーの開発-受信部を中心にして-, 第 32 回リモートセンシングシンポジウム
(筆頭以外の発表件数 16 件)
- 仲江川敏之
- ・AGCM 実験に基づく大陸河川季節平均流量の潜在的予測可能性, 日本気象学会 2006 年度春季大会
 - ・気象庁/気象研究所の衛星重力地球学への貢献, 「日本版」衛星重力ミッションを目指して
(筆頭以外の発表件数 1 件)
- 中里真久
- ・対流圏オゾンライダーで観測されたつくばにおける夏季の境界層内高濃度オゾンの解析, 日本気象学会 2006 年度春季大会
 - ・台風中心の南方に出現する特異な線状の降雨帯の成因と構造, 日本気象学会 2006 年度春季大会
 - ・Differential Absorption Lidar for Tropospheric Ozone Measurement Using Stimulated Raman Scattering in CO₂, 23rd International Laser Radar Conference
 - ・Preliminary Results of Comparison Between KC Ozonsonde and UV Ozone DIAL, 23rd International Laser Radar Conference
 - ・Case Study of Urban Air Pollution over Tsukuba as Observed by UV Ozone DIAL, 23rd International Laser Radar Conference
 - ・対流圏オゾンライダーにおける観測データのエアロゾル補正, 日本気象学会 2006 年度秋季大会
 - ・レーザーと環境データを用いた竜巻とダウンバーストの発生前における識別可能性, 日本

気象学会 2006 年度秋季大会
(筆頭以外の発表件数 10 件)

- 中澤哲夫
- Role of large-scale circulation on tropical cyclone landfall in Japan, 27th Conference on Hurricanes and Tropical Meteorology
 - 台風の日本上陸と北西太平洋での環境場の長期変動, 日本気象学会 2006 年度春季大会
 - Asian THORPEX, Our Strategy to Mitigate Disasters, Asia Oceania Geosciences Society 3rd Annual Meeting
 - THORPEX Pacific Asian Regional Campaign (T-PARC) in 2008, 第 2 回日中韓気象学会共催シンポジウム
 - 台風の日本上陸・接近とエルニーニョ現象との関連について, 日本気象学会 2006 年度秋季大会
 - TRMM3G68 データに見る PR と TMI の降水量推定差について, 日本気象学会 2006 年度秋季大会
 - 台風のための双方向予報システムの構築に向けて, シンポジウム「台風－伊勢湾台風から 50 年を経て－」, 日本気象学会 2006 年秋季大会
 - 台風研究の最前線, 平成 18 年度東海大学代々木公開講座「災害を知る」
 - THORPEX Pacific Asian Regional Campaign: Asian Perspective, Second THORPEX International Science Symposium
 - 台風防災のための新しい観測法～最適観測法～、京都大学防災研究所「台風の機動的観測に基づいた予報精度の向上と災害軽減に関する研究集会」
(筆頭以外の発表件数 8 件)

- 中野俊也
- Variability of North Pacific Tropical Water using reanalysis is MRI ocean data assimilation system (MOVE/MRI.COM-G) from 1993 to 2004, 2006 Western Pacific Geophysics Meeting
 - 本当に北太平洋亜熱帯循環域中層は低塩分化しているのか?, 東京大学海洋研究所附属国際沿岸海洋研究センター研究集会「オホーツク海の変動とその親潮海域への影響」
 - 北太平洋亜熱帯循環域中層の低塩分化, 2006 年度日本海洋学会秋季大会
 - Freshening of the mid-depth in the North Pacific subtropical gyre observed along JMA's Repeat and WOCE hydrographic sections, 21st Century COE International Symposium -Climate Change: Past and Future-
 - 気象庁次期北西太平洋海況予測システム (MOVE/MRI.COM-WNP) の再現性 (Ⅲ), 2007 年度日本海洋学会春季大会
(筆頭以外の発表件数 9 件)

- 中野英之
- 黒潮続流の南北の再循環について, 2006 年度日本海洋学会秋季大会
(筆頭以外の発表件数 4 件)

- 野田 彰
- 気象研究所における気候研究, シンポジウム「我が国の気候学研究と重点化政策に関する検討会」(CCSR 拡大協議会)
 - 地球温暖化のメカニズムと気候モデルによる将来予測, 岡山大学保健環境センター公開講演会 テーマ: 地球温暖化問題をめぐる最新の研究動向とリスク対策
 - Multi-Model Time-Varying Global Warming Patterns Foced by CO₂ in the 20th Century, Northeastern Asian Symposium 2006: Climate Change and Cycle
 - 20km 格子大気大循環モデルを用いた地球温暖化予測, 第 1 回 IR3S/ICAS 国際シンポジウム 地球環境の将来-温暖化の予測と対応策の課題
 - Global Warming Simulated with Super-High Resolution AGCM and RCM, 第 4 回気候変動に関する EU-日本シンポジウム

(筆頭以外の発表件数 2 件)

- 萩野谷成徳
- ・ 突風率から推定した地表面粗度の長期変化, 日本気象学会 2006 年度春季大会
 - ・ A climatological estimate of heat and water fluxes over the Tibetan Plateau, International Workshop on Energy and Water Cycle over the Tibetan Plateau
 - ・ NDVI から推定したチベット高原上の熱収支, 日本気象学会 2006 年度秋季大会
- 長谷川洋平
- ・ 津波数値計算における初期値の誤差と計算結果との関係について一断層すべり分布の空間位置変化と津波高さ, 日本地震学会 2006 年度秋季大会
- (筆頭以外の発表件数 4 件)
- 林 修吾
- ・ 発雷観測数と数値シミュレーションにおける雲物理量の統計的比較(2005/06 冬), 日本気象学会 2006 年度春季大会
 - ・ 冬季の落雷極性比率と 1km-NHM における雲の統計的特徴の比較(2005/06 冬), 日本気象学会 2006 年度秋季大会
 - ・ Numerical Simulation of Electrical Space Charge Density and Lightning by Using a 3-dimensional Cloud-resolving Model, 5th International Conference on Mesoscale Meteorology and Typhoon
 - ・ 気象予測の現状と今後の展開～発雷予測研究の最前線, 第 3 回雷害リスク低減普及セミナー～雷を知る・学ぶ・防ぐ・事業継続と防雷対策～
- (筆頭以外の発表件数 1 件)
- 林 豊
- ・ 衛星海面高度計による 2004 年インド洋津波観測値からの海洋変動成分の除去, 日本地球惑星科学連合 2006 年大会
 - ・ スマトラ島沖地震に伴うジオイド高変化の衛星海面高度計による検出, 日本地球惑星科学連合 2006 年大会
 - ・ Reducing oceanographical backgrounds in sea surface height data on 2004 Indian Ocean tsunami from satellite altimetry, The Asia Oceania Geosciences Society 3rd Annual Meeting (AOGS 2006)
 - ・ Detection of seismic geoid changes by the 2004 Sumatra-Andaman earthquake from satellite altimetry, The Asia Oceania Geosciences Society 3rd Annual Meeting (AOGS 2006)
 - ・ Detection of the Indian Ocean tsunami by satellite altimetry, The 6th Joint Meeting of the UJNR Panel on Earthquake Research
- (筆頭以外の発表件数 2 件)
- 原 昌弘
- ・ 全球特異ベクトルを用いた NHM によるダウンスケール予報実験(序報)(日本域を最終ノルムのターゲット域にした場合), 日本気象学会 2006 年度秋季大会
- 平原幹俊
- ・ 小規模擾乱が担う熱・塩輸送の特徴, 2006 年度日本海洋学会秋季大会
 - ・ Anisotropic eddy parameterizations implemented in a coarse ocean general circulation model, American Geophysical Union Fall Meeting
 - ・ 小規模擾乱が担う熱・塩輸送の特徴Ⅱ, 2007 年度日本海洋学会春季大会
- (筆頭以外の発表件数 2 件)
- 廣瀬勝己
- ・ 太平洋における ^{137}Cs とプルトニウムの分布について: BEAGLE2003 の結果について, 日本放射線影響学会第 49 回大会
 - ・ つくばの降下物中のプルトニウムについて: 地殻起源のトリウムとの比較, 2006 年度日本地球化学会第 53 回年会

- ・金属イオンをブルーブとして用いた天然物中の有機配位子の定量, 日本分析化学会第 55 年会
 - ・海水中の微量金属元素濃度をきめる要因について, 2006 年度日本海洋学会秋季大会
 - ・Plutonium and ^{137}Cs in surface seawaters of the South Pacific, 2006 SHOTS Workshop
 - ・Distribution of the strong organic ligand, SOL, in the South Pacific particulates, 2006 SHOTS Workshop
 - ・日本におけるプルトニウム降下量: 半世紀の返還, 第 8 回「環境放射能」研究会
(筆頭以外の発表件数 16 件)
- 弘瀬冬樹
- ・地震波放射減衰係数の変化が東海地震のシミュレーションに与える影響, 日本地球惑星科学連合 2006 年大会
 - ・日本周辺の b 値の空間分布, 日本地球惑星科学連合 2006 年大会
 - ・Double-Difference Tomography 法によるフィリピン海スラブの速度構造の推定, 日本地球惑星科学連合 2006 年大会
 - ・東海地域のスロースリップイベントの再現, 日本地震学会講演予稿集 2006 年度秋季大会
 - ・Double-Difference Tomography 法によるフィリピン海スラブの速度構造の推定—その 2—, 日本地震学会 2006 年度秋季大会
(筆頭以外の発表件数 2 件)
- 福井敬一
- ・有限要素法シミュレーション結果データベースを用いた地殻変動モデル推定方法の開発, 日本火山学会 2006 年秋季大会
(筆頭以外の発表件数 6 件)
- 藤井陽介
- ・アジョイント法について, 2006 海洋データ同化夏の学校
 - ・アジョイント法による解法—移流拡散方程式を例にして—, 2006 海洋データ同化夏の学校
 - ・南太平洋回帰線水(SPTW)と太平洋赤道域の表層水温 (2), 2006 年度日本海洋学会秋季大会
 - ・特異ベクトル抽出による黒潮大蛇行形成の初期状態依存性解析 I: 特異ベクトルの抽出, 2006 年度日本海洋学会秋季大会
 - ・Modeling of background error statistics with temperature-salinity coupling, GODAE Symposium on ocean data assimilation and prediction in Asia-Oceania
 - ・Variation of South Pacific Tropical Water in an ocean data assimilation system (MRI-MOVE) and its relation to ENSO, American Geophysical Union Fall Meeting 2006
 - ・気象庁次期北西太平洋海況予測システム (MOVE/MRI.COM-WNP) の再現性 (II) —数値モデルと同化手法の概要—, 2007 年度日本海洋学会春季大会
(筆頭以外の発表件数 11 件)
- 藤部文昭
- ・日本における著しい高温・低温の経年変動, 日本気象学会 2006 年度春季大会
 - ・本州～九州の梅雨入りに先立つ 5 月末ごろの少雨期, 日本気象学会 2006 年度春季大会
 - ・日本における降水の空間的集中度の長期変化, 日本気象学会 2006 年度秋季大会
 - ・都市温暖化の実態とメカニズム, 第 23 回資源生物科学シンポジウム「温暖化と屋上・建物緑化: その現状と展望」
 - ・猛暑とヒートアイランド, 平成 18 年度 防災気象講演会 (前橋地方気象台・群馬県)
 - ・Meteorological and hydrological studies of droughts and meteorological potential of precipitation augmentation for drought mitigation, International Symposium on Weather Modification “Present State of Artificial Precipitation Enhancement”
 - ・局地循環の多様性—「海風」と「海から吹いてくる風」の違い—, 第 4 回天気予報研究会
 - ・アメダス地点における気温の経年変化率と人口密度との関係, 2007 年度日本地理学会春季

学術大会

(筆頭以外の発表件数 1 件)

- 別所康太郎
- Statistical analysis of organized cloud clusters on western North Pacific and their warm core structure, 27th Conference on Hurricanes Tropical Meteorology of the American Meteorological Society
 - 北西太平洋上における台風へ発達する可能性のあるクラウドクラスターの統計解析とその温暖核構造, 日本気象学会 2006 年度春季大会
 - 台風へ発達する可能性のあるクラウドクラスターとその温暖核構造, 国際沿岸海洋研究センター共同利用研究集会「台風の力学：何が理解されていないのか？」
 - JRA-25 からみた台風へ発達する可能性のあるクラウドクラスター, 日本気象学会 2006 年度秋季大会
 - Statistical Analysis of Organized Cloud Clusters Developed or Not-developed to Tropical Cyclones on Western North Pacific and Their Warm Core Structure, 第 5 回メソ気象と台風に関する国際会議 (主催：米国大気海洋研究センター)
 - 衛星からの台風災害監視と予測への応用, 第 4 回宇宙からの地球観測衛星講演会「宇宙からの自然災害の監視と防災」
 - 台風へ発達する可能性のあるクラウドクラスターとその温暖核構造, 第 56 回理論応用力学講演会
- (筆頭以外の発表件数 2 件)
- 星野俊介
- AMSU データを用いた台風の暖気核構造の追跡, 日本気象学会 2006 年度秋季大会
- (筆頭以外の発表件数 2 件)
- 保坂征宏
- Changes in snow cover and snow water equivalent due to global warming simulated by a 20km-mesh global atmospheric model, 1st Asia CliC Symposium
 - 気象庁・気象研究所の全球モデル開発のこれまでとこれから, 惑星大気研究会
 - The change of Greenland ice sheet simulated by SICOPOLIS due to the global warming, GCCA-7, Fairbanks, USA
 - Change of Greenland Ice Sheet due to Global Warming Simulated by SICOPOLIS [poster], GCCA-7, Fairbanks, USA
- (筆頭以外の発表件数 1 件)
- 前田憲二
- 大地震の誘発地震活動に基づく応力蓄積率の推定, 地震・地質データを用いた応力場の推定 (東京大学地震研究所平成 18 年度特定共同研究 (A)「日本列島周辺域の応力場・ひずみ場に関する研究」の研究集会)
 - 2003 年宮城県沖地震の誘発地震活動による応力蓄積率の推定, 日本地震学会 2006 年度秋季大会
- (筆頭以外の発表件数 6 件)
- 益子 渉
- A cloud-resolving simulation of typhoon RUSA(2002): Polygonal and Mesovortices structure, 27th Conference on Hurricanes and Tropical Meteorology
 - 高解像度非静力学モデルによる T0422 号の微細構造の再現性, 日本気象学会 2006 年度春季大会
 - Numerical Simulation of wind structure in the inner-core of Typhoon MA-ON(2004), The Asia Oceania Geosciences Society 3rd Annual Meeting (AOGS2006)
 - 台風 0422 号の進行方向後面左側で生じた強風のメカニズム, 日本気象学会 2006 年度秋季大会
 - Generation mechanism of strong winds in the left-rear quadrant of Typhoon MA-ON

- (2004) during its passage over the southern Kanto district, eastern Japan, 5th International Conference on Mesoscale Meteorology and Typhoon
- ・ T0422 号の通過に伴い関東南部で生じた強風のメカニズム, 第 8 回非静力モデルに関するワークショップ
(筆頭以外の発表件数 6 件)
- 増田一彦
- ・ 海面での反射成分を考慮した赤外射出率, 日本気象学会 2006 年度春季大会
(筆頭以外の発表件数 1 件)
- 松枝秀和
- ・ 定期航空機によるフラスコサンプリングで観測される二酸化炭素濃度の変動, 日本気象学会 2006 年度春季大会
 - ・ 大気中ラドン測定装置の改良, 第 12 回大気化学討論会
(筆頭以外の発表件数 7 件)
- 松本 聡
- ・ MOVE/MRI.COM System: Practical Implementations of Multivariate Structure in B-Matrix and Water Mass Analyses, 3rd GODAE Symposium
 - ・ 気象庁次期北西太平洋海況予測システム (MOVE/MRI.COM-WNP) の再現性 (V) - 北西太平洋における水塊特性の比較 -, 2007 年度日本海洋学会春季大会
(筆頭以外の発表件数 11 件)
- 真野裕三
- ・ CIP 法による電磁波散乱の計算, 日本気象学会 2006 年度春季大会
- 馬淵和雄
- ・ 陸面植生モデル BAIM2 を導入した炭素循環気候モデル -S-1 プロジェクト最終年度に向けて-, 筑波大学 S1 プロジェクト研究会
 - ・ 3 次元気候モデルによる炭素循環システムの理解と陸域バイオマス評価, B60 アドバイザリーボード会合
 - ・ アジア熱帯域森林植生変動が炭素循環に与える影響について -BAIM2 を導入した全球気候モデルによる数値実験-, 2006 年度日本気象学会春季大会
 - ・ 物理気候モデルへの陸面生態システムの導入とそれによる圏間相互作用研究, 「環境物理学-先端境界領域の創出へ向けて-
 - ・ 地域気候モデル JSM-BAIM のモデル領域における JRA-25 再解析データの年々変動の特徴, 筑波大学 S1 プロジェクト研究会
 - ・ On-line Climate Model Simulation of the Global Carbon Cycle and Verification Using the In Situ Observation Data, The 3rd Biennial Meeting of the International Environmental Modelling and Software Society
 - ・ 陸域植生モデル BAIM2 を導入した地域気候モデルによる東アジア域炭素収支数値実験, 環境省地球環境研究総合推進費戦略的研究領域 S-1 「21 世紀の炭素管理に向けたアジア陸域生態系の統合的炭素収支研究」ワークショップ
 - ・ 近年の東アジア陸域における炭素収支変動の特徴 -BAIM2 を導入した地域気候モデルによる数値実験-, 日本気象学会 2006 年度秋季大会
 - ・ 3 次元気候モデルによる炭素循環システムの理解と陸域バイオマス評価, 環境相地球環境研究総合推進費 B-60 「京都議定書吸収源としての森林機能評価に関する研究」平成 18 年度第 1 回アドバイザリーボード会合
 - ・ Numerical Experiment of the Relationship Between the Carbon Balance and the Climate Under Deforestation Conditions in the Asian Tropical Region, The AGU 2006 Fall Meeting
 - ・ アジア熱帯域における森林減少が地域の気候および炭素循環に及ぼす影響に関する数値実験, CREST 研究「熱帯モンスーンアジアにおける降水変動が熱帯林の水循環・生態系に与える影響」全体会議

- ・3次元気候モデルによる炭素循環システムの理解と東アジア陸域炭素収支変動予測，環境省地球環境研究総合推進費戦略的研究領域 S-1「21世紀の炭素管理に向けたアジア陸域生態系の統合的炭素収支研究」平成18年度第2回アドバイザーボード会合

三上正男

- ・An overview of ADEC and an interaction to JADE project, 新疆生態与地理研究所特別講演
- ・Wind erosion process from anthropogenic source area – a preliminary results of JADE IOP1, 6th International Conference on Aeolian Research (ICAR6)
- ・Effect of soil water on saltation process observed in China and Australia, 6th International Conference on Aeolian Research (ICAR6)
- ・オーストラリア休耕地からの飛砂飛散過程の観測 (JADE IOP1 速報), エアロゾル検討会
- ・JADE IOP1における耕作地の土壌水分と飛砂粒子数の現地観測, エアロゾル検討会
- ・An overview of Aeolian dust experiment on climate impact (ADEC), 2nd Korea Japan China joint meteorological society symposium
- ・An overview of the aeolian dust experiment on climate impact (ADEC) experiment, NEESPI symposium Beijing
- ・ミクロの黄砂からマクロの地球を理解する, 日本沙漠学会乾燥地農学分科会講演会
- ・An introduction to ADEC and JADE, JICA セミナー
- ・「黄砂」と「予報士制度」, 予報士会茨城部会・例会
- ・北東アジアの地表面条件とダストの発生について, 第3回モンゴル環境フォーラム
- ・北東アジアの地表面条件と風送ダストの発生について, 北東アジア植生変遷域における大気・水・生態プロセスとその相互作用に関するワークショップ
(筆頭以外の発表件数 2 件)

緑川 貴

- ・北太平洋における CO₂ 分圧の年々変動, 2006 年度日本海洋学会秋季大会
(筆頭以外の発表件数 3 件)

村上正隆

- ・アジア域におけるエアロゾルの間接効果に関する実験・観測的研究, 日本気象学会 2006 年度春季大会
- ・Development of convectively mixed layer and formation in it observed by an instrumented aircraft, 12th AMS conference on Cloud Physics
- ・渇水対策のための人工降雨・降雪に関する総合的研究ー研究計画概要とシーディング戦略ー, 日本気象学会 2006 年度秋季大会
- ・黄砂粒子が山岳性降雪雲の内部構造に及ぼす影響, 日本気象学会 2006 年度秋季大会
- ・Recent Japanese research on orographic snow cloud modification for water resources augmentation, The International Symposium on Weather Modification
(筆頭以外の発表件数 12 件)

村崎万代

(筆頭以外の発表件数 2 件)

村田昭彦

- ・高解像度モデルにおける積雲対流パラメタリゼーションの必要性, 日本気象学会 2006 年度春季大会
- ・台風 0421 号に伴う紀伊半島での豪雨における降水強化機構, 日本気象学会 2006 年度秋季大会
- ・雲解像モデルによる積雲のデトレインメントの解析, 第 8 回 非静力学モデルに関するワークショップ
(筆頭以外の発表件数 2 件)

室井ちあし

- ・防災のための気象シミュレーション, 計算科学の戦略と次世代スーパーコンピュータ
- ・水平解像度 1km 非静力学モデルによる領域温暖化予測実験 (1) 概要, 日本気象学会 2006 年

度春季大会

- ・立方体型非静力学大気モデルの改良，日本気象学会 2006 年度秋季大会
(筆頭以外の発表件数 3 件)

毛利英明

- ・Vortex tubes in turbulence velocity fields at high Reynolds numbers, Workshop on High Reynolds Number Experiment
- ・Vortex tubes in turbulence velocity fields at high Reynolds numbers, IUTAM Symposium on Computational Physics and New Perspective in Turbulence
- ・乱流局所統計量の揺らぎについて，乱流と輸送現象
(筆頭以外の発表件数 1 件)

本井達夫

- ・El Niño/Southern Oscillation Simulation at the Mid-Holocene: Effect of Flux Adjustment, European Geosciences Union (EGU) general assembly 2006
- ・Changes in the Asian monsoon system caused by mountain uplift in a climate model. Workshop on Climate-Tectonic Drilling in Southeast Asia
- ・宗谷海峡における海水・海氷輸送量の季節変化と経年変動，2006 年度日本海洋学会秋季大会
- ・ヒマラヤチベット隆起による西部北太平洋緑辺海の低塩化，2007 年度日本海洋学会春季大会
(筆頭以外の発表件数 5 件)

安田珠幾

- ・20 世紀後半における全球海面水位トレンドの熱膨張成分，2006 年度日本海洋学会秋季大会
- ・Linear Trend of Global Mean Sea Level due to Thermal Expansion during 1960-2001: OGCM Experiments, Symposium "Climate Change: Past and Future"
- ・Modeling Studies on the Mode Waters in the Midlatitude North Pacific, Symposium "Climate Change: Past and Future"
- ・気象庁次期エルニーニョ予測モデルの開発，第 4 回「異常気象の予測可能性と気候の変化・変動」研究集会
- ・大気海洋結合モデルによるエルニーニョ予測モデルの開発，2007 年度日本海洋学会春季大会
(筆頭以外の発表件数 17 件)

柳野 健

- ・フーリエ漸近解法によるドップラー解析と VAD 上層風解析，日本気象学会 2006 年度春季大会
- ・ドップラーレーダーの風復元に関する理論解析と応用解析，日本気象学会 2006 年度秋季大会

山内 洋

- ・ドップラーレーダーを用いた収束線自動検出ツールの開発ー雷雨の発生予測のためにー，日本気象学会 2006 年度秋季大会
(筆頭以外の発表件数 3 件)

山崎明宏

- ・ADEC スカイラジオメーターネットワークから得られた観測結果，日本気象学会 2006 年度秋季大会

山崎 明

- ・海底地震計による「2004 年 9 月 5 日東海道沖の地震(Mj=7.4)」の余震観測 (II)，日本地球惑星科学連合 2006 年大会
- ・地形の影響を考慮した茂木モデルによるピエゾ磁気効果，日本火山学会 2006 年秋季大会
- ・地形の影響を考慮した茂木モデルによるピエゾ磁気効果，平成 18 年度京都大学防災研究所研究集会 (18K-08) 「電磁気学的研究は地震・火山噴火の発生メカニズムの解明にど

こまで貢献できるか」

(筆頭以外の発表件数 2 件)

- | | |
|------|--|
| 山里 平 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 富士山の火山監視と噴火予知, 火山工学シンポジウム「首都圏と火山災害—富士山噴火で東京は・・・?」 <p>(筆頭以外の発表件数 5 件)</p> |
| 山中吾郎 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 西部太平洋熱帯域における季節から経年スケールの表層熱収支, 2006 年度日本海洋学会秋季大会 ・ 2006/07 エルニーニョ現象の発生について (速報), 2007 年度日本海洋学会春季大会 <p>(筆頭以外の発表件数 4 件)</p> |
| 山本剛靖 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 大域的最適化手法による断層パラメータの推定, 日本測地学会第 106 回講演会 <p>(筆頭以外の発表件数 1 件)</p> |
| 行本誠史 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 大気海洋結合モデル実験による北極振動の太陽活動による変調の可能性, 日本気象学会 2006 年度春季大会 <p>(筆頭以外の発表件数 1 件)</p> |
| 吉田康宏 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 静岡県森町における弾性波アクロス送信装置の設置—東海地震震源域の能動的監視を目指して—, 日本地球惑星科学連合 2006 年大会 ・ The rupture process of 2004 Sumatora-Andaman Earthquake viewing from the data obtained by the strainmeters of JMA, The Asia Oceania Geosciences Society 3rd Annual Meeting (AOGS2006) <p>(筆頭以外の発表件数 1 件)</p> |
| 吉村 純 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 20km 格子全球大気モデルによる温暖化実験における台風—海面水温への依存性について, 日本気象学会 2006 年度春季大会 ・ Influences of global warming on the tropical cyclone climatology as simulated in a 20-km-mesh global atmospheric model, 4th International Symposium on Computational Wind Engineering ・ Influences of global warming on the tropical cyclone climatology as simulated in a 20-km-mesh global atmospheric model, Korea-Japan-China Second Joint Conference on Meteorology ・ 20km 格子全球大気モデル実験における台風—AMIP 型 20 年積分における ENSO との関係, 日本気象学会 2006 年度秋季大会 ・ 地球温暖化と台風, かわさき市民アカデミー2006 年度後期科学コース講座「暮らしの中の科学 ～災害の科学～」 ・ 全球気候モデルを用いた地球温暖化予測, 港湾空港技術研究所地球温暖化研究講演会 <p>(筆頭以外の発表件数 1 件)</p> |
| 吉村裕正 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 気象庁・気象研究所全球スペクトル大気モデルへのセミラグランジュ法の導入, 第 20 回数値流体力学シンポジウム <p>(筆頭以外の発表件数 2 件)</p> |
| 和田章義 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 海洋貯熱量分布と台風の発生・急発達との関係, 日本気象学会 2006 年度春季大会 ・ 海洋混合層過程と氷晶発生過程が台風強度に与える影響—非静力学台風海洋混合層結合モデルによる台風 10 号(2004)の数値実験—, 日本気象学会 2006 年度春季大会 ・ 表層海洋変動が台風に与える影響 —研究の現状と将来展望—, 東京大学海洋研究所付属国 |

際沿岸海洋研究センター研究集会「台風の力学：何が理解されていないか？」

- ・ 海洋大循環モデルを用いた海洋混合層モデルの台風域におけるエントレインメント率算出法の検討, 2006 年度日本海洋学会秋季大会
- ・ f 面上の台風渦の発達による局所的な海面水温低下と海面水温初期値依存症, 2007 年度日本海洋学会春季大会